

令和3年3月11日
(資料提供)

(事務担当)
所属名：農林総合研究センター 農業試験場
総合研究部 病害虫防除室
直通：257-6972

令和2年度病害虫発生予報第8号について

今後発生が予想される水稲、大麦、果樹、野菜等の病害虫の発生量や防除上の注意事項について掲載します。

1 予報期間 3月下旬～4月下旬

2 予報内容

(1)水 稲

苗いもちの発生は**やや多**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

ばか苗病の発生は**やや多**と予想される。種子や育苗資材の消毒と播種時の防除を徹底する。種子予措から育苗期間中の温度管理、水管理を適正に行う。

(2)麦 類

オオムギ赤かび病の発生は**平年並**と予想される。出穂期の3～5日後およびその7～10日後の2回防除する。本年は暖冬で推移し、出穂期が早まる可能性があるため、麦の生育状況に注意し、防除が遅れないよう留意する。

(3)果 樹

かき炭疽病の発生は**多**と予想される。罹病枝は発生源となるので直ちに切り、ほ場から除去する。休眠期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**やや多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

(4)野菜・花き

施設野菜のハダニ類・アブラムシ類の発生は**多**と予想される。抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

※病害虫防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止を徹底する。